

審議会等の会議の記録

審議会等の名称	平成30年度第1回西脇市介護保険運営協議会
開催日時	平成30年10月25日（木） 午後3時30分～5時
開催場所	西脇市健康づくりセンター 運動指導室
出席委員の氏名 又は人数 （敬称略）	大久保恵司、大西美樹、齋藤周藏、島田彰子、 芹生哲也、徳岡敏昭、飛田雅子、廣田よし子、 南久雄、村上昌紘、安好栄子、吉田孝司 計 12人
欠席委員の氏名 又は人数（敬称略）	西田俊哉、廣田昌稔、真鍋宣征 計 3人
出席職員の職・ 氏名又は人数	福祉部長 細川喜美博 長寿福祉課長 村井真紀 健康課長 塩崎さゆり 介護保険担当課長補佐 徳岡雅子 指導監査担当主査 福田有里 地域包括支援担当主査 笹倉真由美 にしわき北地域包括支援センター 藤原八穂 にしわき南地域包括支援センター 足立ちづる 計 8人
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	1人
議題又は協議事項	1 介護保険運営協議会委員について 2 事業実施状況について (1) 高齢者福祉事業 (2) 介護保険事業 (3) 地域支援事業 (4) 第7期計画の進捗状況 3 保険者機能強化推進交付金の評価について 4 市及び地域包括支援センターの評価について 5 地域密着型サービス事業者の公募について

発信者	会議の記録（概要）
会長	1 会長あいさつ
事務局	2 報告事項
会長	介護保険運営協議会委員について2名の委員の交代があった旨事務局より報告
事務局	3 協議事項 (1) 事業実施状況について ア 高齢者福祉事業 イ 介護保険事業 ウ 地域支援事業 エ 第7期計画の進捗状況 (事務局より説明)
委員	介護予防で住民主体の通いの場の設置数が34か所とあるが、これは公民館のことか。
事務局	介護予防体操を週1回以上されている所のこと。 一つは、「おりひめ体操自主グループ」の活動で公民館を会場にされている所が多いが、自宅等を会場にされている場合もある。また、「いきいきサロンの週いち型」という週に1回以上開催されているサロンがあり、こちらも公民館を会場とされている。もう一つ「元気応援カフェ」といって喫茶店等を拠点にして、おりひめ体操等を実施する事業もあり、それは喫茶店等が会場になっている。
会長	早期発見ツールを使用した相談の実施数が大きく増えているのは、町ぐるみ検診で実施したからか。
事務局	そのとおり。当初想定していた数よりたくさんの方の利用があった。
会長	認知症初期集中支援チームによる支援実施数が目標値を下回る見込みであるが、掘り起こしが難しく、上がってくる事例が少ないのか。
事務局	一つには、対象者を把握することが難しいという問題がある。これは地域包括支援センターと連携して把握に努め

	<p>ていく。もう一つはチーム員会議にかけるまでの資料作り等の業務が煩雑であり、会議の回数を増やしにくい。今は国が示す手法で実施しているが、もう少し効率的に実施できるよう手順を検討し、回数を増やせるようにしていきたい。</p>
<p>会長</p>	<p>認知症の方の支援には、本人や家族の同意を得られないために、チーム員会議にかけられないという問題もあると思うが。</p>
<p>事務局</p>	<p>それも課題である。現在も家族の同意が得られず、名前を伏せて、支援を検討しているケースがある。</p>
<p>会長</p>	<p>平成29年度の要介護1と要介護2の認定者数が平成28年度と比較して伸び率が減少しているのは、改善して介護度が下がる人があって減少しているのか、若しくは、重度に移行して減少しているのか。国では色々な事業に取り組めば介護度が下がるはずだとの考えであるが、西脇市ではどうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>下がっている方が何名かなどの把握はしていないが、認定結果を見ていると、前回と同じ介護度が出る方が一番多く、上がっている方と下がっている方との割合では、容態が悪くなられ、上がっている方の方が多いと感じる。</p>
<p>会長</p>	<p>今回、介護度が下がっている人が多い市町村に交付金が交付されると聞いているが。</p>
<p>事務局</p>	<p>保険者機能強化推進交付金で介護度が下がっている人が多い市町村に加点される項目がある。要介護認定の結果をすべて厚生労働省に送付しているため、厚生労働省において集計されるが、市では把握できていない。</p>
<p>会長</p>	<p>要介護5の方の件数が減少しているのは、どういう理由か。ケアがよくなってきて、介護度が下がってきているのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>要介護5から認定が下がるケースはあまりない。亡くなる方と悪くなられて要介護5になられる方の数の割合</p>

	<p>で今回はたまたま人数が減っていると思う。要介護4、5については、経年で見ても増えたり減ったりで、増加し続ける傾向というわけではない。</p>
副会長	<p>総人口は減っているのに要介護認定者数は増えている。ずっと要介護認定者数は増えていくということか。</p>
事務局	<p>人口は減っているが要介護認定率の高い75歳以上の後期高齢者の数は今後も増加すると推計している。そのため、要介護認定者数は増えるの見込んでいます。</p>
副会長	<p>保険給付費が平成28年度の39億8,000万から平成29年度の42億1,000万円に1年で大きく上がっているが、このように大きな金額がずっと上がっていく見込みか。</p>
事務局	<p>上がっていく見込みである。平成31年度には消費税の引き上げに伴い報酬の増額改定も予定されており、ますます増加する見込みである。</p>
副会長	<p>この財源はどこになるのか。</p>
事務局	<p>介護保険料と、国・県・市の負担金になる。そのため、給付費が上がると介護保険料が上がることになる。</p>
副会長	<p>それは住民の皆さんご存じなのか。</p>
会長	<p>これが2025年問題であり、団塊の世代の人が高齢者になると、介護が必要な人が増え、介護が必要な人が増えると介護給付費が上がり、保険料が上がる。</p> <p>この問題をなんとかするために、国は介護予防の事業を充実して、介護を受けない人・元気高齢者を増やすという施策に力を注いでいる。市へ、介護予防や重度化防止の事業への取組に対して、交付金を交付するというのもその一つの施策になる。</p>
副会長	<p>認定率が下がっていくと良いということか。他の会議で今までより認定の審査が厳しくなり、低い介護度が出るようになっていないかとの話があった。介護サービスを利用したい住民と、認定率を下げたい施策とのせめぎ</p>

<p>会長</p>	<p>合いになる部分もあるのか。</p> <p>今のところは、認定審査の基準は変わっておらず、そのようなことはない。</p> <p>要介護者が増加する問題に向けては、市を挙げて健康で長生きするまちづくりをしようとの取組もある。筑波大学の教授の研究で、「歩く社会」が「長寿社会」との研究結果がある。</p>
<p>事務局</p>	<p>(2) 保険者機能強化推進交付金の評価について (事務局より資料説明)</p>
<p>会長</p>	<p>2025年に認知症高齢者が増えるとの推計であるが、患者を診る医者は増える見込みがないというのも課題である。</p>
<p>委員</p>	<p>達成できなかった項目に、「介護支援専門員へのケアマネジメントに関する基本方針を伝えるための研修会等の実施」というものがあるが、他市では何年も前から計画的にケアマネジメントの適正化につながる研修会を実施されており、市へは何度か研修会はないのかとの問い合わせはしてきたが、今後具体的に実施する予定はあるか。</p>
<p>事務局</p>	<p>ケアマネジメントの適正化という研修については具体的には考えてないが、市の方針等を伝えるために、昨年度末に、市内居宅介護支援事業者に第7期計画の方針等について説明会を実施したところであり、このような説明会は継続的に実施しなければならないと考えている。</p> <p>今年度も12月頃に、市の方針を伝える説明会を実施したいと考えており、ケアマネジメントに関することも含めお伝えしたいと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>退院・退所加算の取得率も交付金の評価項目になっているが、退院・退所加算は、入院の医師以外に、在宅のかかりつけ医や薬剤師等少なくとも4者が出席しないと、1番高い加算は算定できないことになっており、ハードルが高い。</p> <p>在宅の医師のうち一部の先生は参加いただけるが、参加いただけない医師も多い。</p>

会長	<p>参加しない医師は、どういう理由からか。報酬のことや市の方針等を伝えて参加を勧奨することはできるが、時間がないことが理由か。</p>
委員	<p>時間がないことが理由と考える。薬剤師会でも病院の退院時カンファレンス時にいつも参加ができるかという、時間の都合で参加できないことがある。代理での出席でいいとしても患者さんからすると知らない薬剤師が来ているということで、信頼性がないと思い、参加できていない状況である。</p>
会長	<p>入院時連携加算の算定についても北播磨の医師の中で、ケアマネジャーからの情報が欲しいという話が出ている。</p>
委員	<p>入院時の情報提供については、北播磨の様式があり、加算が算定できることもあるため、おそらくケアマネジャーは提供させていただいていると思う。それを電子カルテに載せて、どこまで医師が見られているかという問題もあるかと思う。</p> <p>(3) 市及び地域包括支援センターの評価について (事務局より資料説明)</p>
会長	<p>市と地域包括支援センターについて、項目名は同じであるが全国平均値が違う。これは、指標の内容が違うのか。</p>
事務局	<p>市と地域包括支援センターの思いのくい違い等もわかるようにそれぞれで採点することになっており、全国平均もそれぞれで集計したものになっている。</p> <p>(4) 地域密着型サービス事業者の公募について (事務局より資料説明)</p>
会長	<p>看護小規模多機能型居宅介護というのは、現在市内にないのか。</p>
事務局	<p>現在指定事業者はない。</p>

委員	<p>4 その他</p> <p>包括的支援事業の実施状況についてであるが、平成28年度の市直営の包括支援センターの時と比較して、平成29年度の相談件数は3倍に増えている。委託してきめ細やかな対応をしているからとの説明であったが、もう少し理由を分析された内容を教えてほしい。</p>
事務局	<p>ここに掲載している相談件数はシステムの入力件数をカウントしている。件数の差は入力方法の違いによるものもあるかと思う。市では、朝に相談があり、午後に関係者と連携した場合、一括して入力していたため1件となるが、地域包括支援センターでは、その都度入力されているように見受けられ、そうすると2件となる。また、市の窓口で相談に来られた場合、介護保険担当が受け付けるケースもあり、認定申請につながったり、次の支援者に引き継いだりした場合等は相談件数にはあげず、継続して支援が必要なケースのみを入力しているが、地域包括支援センターは丁寧に入力いただいている。</p> <p>そのような入力の仕方や基準の違いが件数の違いに出ていると思う。</p>
委員	<p>同じ土俵で評価されているのではないということか。</p>
事務局	<p>委託先の地域包括支援センターの方がきっちり入力されていることによるものと考えている。</p> <p>市は、地域包括支援センターに委託の状況を把握するため、できるだけ細かく入力してくださいとお願いしていたため、このような結果となったと考える。</p>
会長	<p>件数で実績を計る以上入力の基準を決めていないと比較できない。今後どうするか。</p>
事務局	<p>平成30年度は年度途中で変えられないためこのまま行すが、平成31年度は検討する。</p>
委員	<p>北と南それぞれの地域包括支援センターは同じ基準で入力されていると思うが、北が318件と南が523件と相談件数が大きく違う。これからこのデータを基にどのように考</p>

<p>会長</p>	<p>えられるか。</p> <p>以前からの名残りで、合併前の旧の西脇市の人は西脇南に、旧の黒田庄町の方は北にというイメージがあるのかもしれない。どちらにでも依頼できると決めている以上仕方ない部分もあると思う。</p> <p>他に何かないか。</p>
<p>事務局</p>	<p>今年度、介護保険の適正化についてのパンフレットを作成し、元気な高齢者の方等にお配りしている。西脇市の高齢者の状況や介護保険制度の仕組み、介護予防やサービスの適正利用について周知していきたいと考えている。</p>
<p>会長</p>	<p>パンフレットを作っても、3割程の人しか読んでくれない。口コミでの周知が有効なため、皆さんの地域で、色々な所で情報を流していただきたい。このパンフレットに載っているフレイル予防の三本柱「社会参加」「栄養」「運動」が一番大事。介護保険料を上げないためには、介護予防しかないので、市は介護事業に栄養士が行って話をするなど、横の連携をとった事業を展開して欲しいと切に願う。</p>